

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県豊橋市立南陽中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 441-8145

豊橋市駒形町字南欠下1番地の1

E-mail nanyou-j@toyohashi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 279 名 女子 271 名 合計 550 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「安全・安心な居場所のある学校づくり」を活動テーマとして、ESD を「未来へつなぐ学びの実現」と捉え、ESD の実践を通して「未来に向かってたくましく生き抜く力の育成」を目標とした。

具体的には、防災、人権、地域連携を柱に、①安全・安心な町づくりや学校づくりに関わる活動、②「いのちの月間」を中心とした命に関わる学習、③地域とのつながりを深める行事について実践した。

① 安全・安心な町づくり、学校づくりを目ざした防災学習

避難訓練の第 1 回は、火災の想定で、避難経路の確認をし、それぞれの避難場所に避難した後、各通学団に分かれ、教師も一緒に下校しながら通学路の安全点検を行った。また、第 3 回の訓練では、大地震から津波が押し寄せることを想定し、保育園、小学校と合同で、高台にある地域の保健施設への避難訓練を計画した。実際には、悪天候のため実施できなかったが、中学生が、災害時にどのような役割を果たすことができるのかを、生徒が主体的に考える場としている。

3年の総合学習では、防災に関する調べ学習を行い、ポスターセッション形式で意見交流を行った。様々な視点からの発表を聞いて防災の意識を高める取り組みとなっている。さらに、本年度は、被災地ボランティアを続けている本校職員が、ボランティア体験について講演し、ぼくたち、わたしたちにできることを強く考える機会となった。

② 「いのちの月間」を中心とした命の学習（人権学習）

6月を「いのちの月間」として、朝の会や学活、道徳などの様々な場面で「いのち」をテーマとした学習の場を設定している。「豊橋・学校いのちの日」に関わる全校集会「いのちの日の集会」では、町別生徒会（通学団）ごとに自分たちの地域の調査をし、危険個所について発表をした。被災時だけでなく、日常の生活から安全に暮らす意識が高められている。

また、短い詩から新聞の投稿まで、様々な分野から見つけた、いのちに関する読み物を紹介し、いのちについて考える時間を確保した。

さらに、1年生では、総合学習で福祉体験学習などを行い、人権についての考えを深める機会とした。

③ 地域とのつながりを深める学校行事（南陽フェスティバル）

「33（サンサン）太陽」をテーマに、地域とのつながりを深める学校行事である南陽フェスティバルを行った。保育園児、小学生、地域のお年寄りなど様々な世代の方が参加するこの行事では、どのように楽しんでもらうかを生徒自身が考え、実践した。PTA保護者による「南陽フェスティバル盛り上げ隊」は、食べ物販売を行い、会を大いに盛り上げた。学校の活動や生徒の様子を発信する場であるとともに、地域との関わりを深める場として大いに役立った。



①避難訓練の様子



②いのちの日の集会
危険個所発表の様子



③生徒による学級企画



③PTA保護者による南陽フェスティバル盛り上げ隊

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">○南陽中ハザードマップ○TOYOHASHI 防災・災害情報○地震の手引き (豊橋市教育委員会)○一行詩「いのちの詩 (うた)」
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各教科や総合学習、行事等を関連付けたESDカレンダーを作成し、ユネスコスクールとしての活動が明確になるようにしている。ESDカレンダーの中には、それぞれの活動の際に重視する能力を記入し、生徒にどのような力をつけさせたいかを意識した指導ができるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

現職研修のテーマをユネスコスクールの活動に関連付けることによって、組織としてまた継続的に取り組めるようにしている。そうすることによって、授業や生徒会での活動なども無理なく実践できるように考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校内では、活動の際には必ず振り返り（生徒・職員）を行う。また、学校評価アンケートや学校評議員の方から意見をうかがう。地域との関わりや生徒の主体性については、生徒や保護者の意見と職員との意見にずれがある。目標を明確にした活動にしていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール豊橋大会でのポスター発表、学校掲示板を使っての発信、さらには活動の様子をホームページに掲載している。活動内容を知らせることにより、学校の教育活動に興味をもっていただき、学校行事等への地域の協力が得やすくなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在のところ学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成はされていない。生徒・職員共にユネスコスクールとしての意識が十分にもつことができるよう、実情に合う形でのネットワーク形成を模索していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在のところユネスコスクール間の交流・ネットワーク形成はされていない。本校は、市内でも外国籍生徒も多い実情もあるので、活動・学習によっては、うまく活用できるようなネットワーク形成を考えていく必要がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒、職員共に地域と関わりをもつためには、学校の中で協力していただくだけでなく、自分たちから地域に働きかけて関係を築いていこうという意識が高まりつつある。生徒会を中心にお掃除隊を結成し、実践しようという動きが出てきた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度と同様に 3 つの柱を軸とした学習・活動を行う。

- ①安全・安心な町づくり、学校づくりを旨とした防災学習
- ②「いのちの月間」を中心とした命の学習（人権学習）
年間を通した、自己肯定感・有用感を高める取り組み
- ③地域とのつながりを深める学校行事（南陽フェスティバル）
※①、③に関わり、生徒会を中心とした地域と協力してのお掃除隊の取り組み